

地域包括ケアシステムと 中山間地域のリハビリテーション医療

リハビリテーション科 三上 幸夫

令和4年6月から公立世羅中央病院で隔週1回非常勤医師として勤務させていただいております、三上幸夫と申します。私は昭和63年に広島学院高校、平成7年に東北大学医学部を卒業し、リハビリテーション医学、整形外科外科学、外科学を学び、令和4年5月付けで広島大学病院リハビリテーション科教授に就任いたしました。



さて、厚生労働省においては、令和7年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を進めております。医療を受ける患者・住民にとってみれば、急性期、回復期、生活期などの状態に応じて質の高い医療が適切に受けられるとともに、必要に応じて介護サービスと連携・協働するなど、切れ目ない医療・介護の提供体制が確保されることが重要です。このためには地域包括ケアシステムの中で、地域医療機能の分化・強化、連携を進め、在宅医療・訪問看護などの整備を含め、効果的・効率的で質の高い医療提供体制を構築することが必要です。そして、高齢化の進展に伴い疾病構造が変化していく中で、「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が求められ、健康寿命延伸の観点から予防・健康づくりの取組も重要となっております。

リハビリテーション医療は、「機能を回復し、障害を克服し、活動を育む」ものであり、病気やケガで生じた機能低下や障害を診断し、機能回復と活動性改善を図ります。リハビリテーション医療では医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、社会福祉士／医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員／ケアマネジャー、介護福祉士などがチームを形成して診療を実践しているのが特徴です。超高齢社会となった現在、リハビリテーション医学・医療の範囲は幅広くなっており、ほぼ全診療科の病気・ケガに関連する生活機能低下と障害が対象となっております。急性期から生活期まで、リハビリテーション医療のニーズは高まっており、中山間地域においても、その果たすべき役割は大きいと考えられます。

今後は微力ながら、世羅町民のさらなる健康増進・疾病予防と健康寿命延伸に貢献できるように、尽力したいと願っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

オンライン面会を行っています。

予約制となっておりますので御希望の方は

公立世羅中央病院 ☎0847-22-1127へお問合せください。

